

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-756
研究課題名：腹部大動脈瘤手術における Enhanced Recovery After Surgery (ERAS)プロトコールの有効性についての研究
研究期間 西暦 2015年3月（倫理委員会承認後）～2016年3月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録 _____）
上記材料の採取期間 西暦 2004年4月～2014年12月
意義、目的 近年、消化器外科領域における新規周術期管理プログラム（Enhanced Recovery After Surgery: ERASプロトコール）による周術期管理の有用性が報告されており、すでに多くの施設で導入されている。東北大学移植再建内視鏡外科にて行われている腹部大動脈瘤のERASプロトコールが従来の周術期管理法と比較して有益かどうか検討することが本研究の目的である。従来の周術期管理と比較検討することにより、ERASプロトコールの有用性が示されれば、今後、さらに合併症発生率を低下させるプログラムへの発展に繋がるなど、より理想的な周術期プログラムを確立できる可能性があることに本研究の意義がある。
方法 東北大学病院移植再建内視鏡外科で治療を行った腹部大動脈瘤患者を対象として、ERASプロトコールに基づいて周術期管理を行った患者群と、従来の周術期管理プログラムにて治療を行った群とを後ろ向きに比較検討する。診療録から腹部大動脈瘤の周術期合併症の発生率や入院期間、採血検査データなどのパラメーターを調査し、ERASプロトコールに基づいた患者群と従来の患者群を比較し統計的に解析を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院 移植再建内視鏡外科（東北大学医学部先進外科）医局 980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1 Tel: 022-717-7214 Fax: 022-717-7217 連絡先担当者 清水 拓也 E-mail: tshimizu@surg2.med.tohoku.ac.jp